

第130号

会長挨拶
特別寄稿
学校自慢（みよし支部）
支部トップックス（田原支部）
教室の窓から（豊川支部）
研究校紹介（岡崎支部）
令和二年度 本部事業
三教研役員一覧
教育随想

教育



三河教育研究会

令和2年7月10日



コロナ禍を乗り越え、 こんな生徒、こんな先生を一人でも多く

三河教育研究会 会長 浅井英雄

今号が発行される頃、日本は、そして世界は、どんな状況になっているのでしょうか。もちろん新型コロナウイルス感染症の話です。教職について三十八年目を迎えますが、臨時休校が三か月近くも続く事態が訪れるなどとは、夢にも思っていませんでした。「どうか、悪い夢であってほしい。」朝、目を覚ましたとき、何度思ったことでしょうか。何年かのち、必ずや教科書に掲載されるであろうできごとになってしまいました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちに不安を募らせ、それを通り越して恐怖すら感じさせました。これまで遭遇したことはない未知のウイルスなので当然とも言えるでしょう。一方で、さまざまな教訓をもたらしてもくれました。

●「あたりまえ」が「ありがたい」

毎日、学校へ行き、授業をし、給食を食べ、子どもたちと語り、授業後は部活動で五感を使い汗を流す。コロナ禍以前はあたりまえの日常でしたが、実はと

てもありがたいことだったということも思い知らされました。「あたりまえ」の対義語が「ありがたい」ということをしみじみと噛みしめながら、日々を過ごしました。

●子どもがいてこそその学校

かつて「○○○を入れないコーヒーなんて」というキャッチコピーのCMがありました。「子どものいない学校なんて」臨時休校中、幾度呟いたことでしょうか。私のような思いに駆られた方は少なからずいると思います。学校という場所は、子どもがいてこそその場所であり、子どもがいることによって、輝きを放つ場所だということを再認識しました。私たち教職員の仕事は、子どもがいてこそ仕事だということも痛感しました。

●外因性の「働き方改革」

臨時休校が長期化したことによって、各学校では教育計画や教育課程の見直し、練り直しが図られたはずですが、想像すらしなかった「在宅勤務」も経験しま

した。内因性ではなく外因性でしたが、「働き方改革」が少なからず進んだのではないのでしょうか。今回の経験を生かさない手はありません。なくてもよいものを削っていくよいチャンスをもたらしてくれたような気がします。ただ、気をつけなければならぬことは、子どもたちにとって、本当に大切なことまでそぎ落としてはならないということです。

●気づかされた「弱点はなにか」

子どもたちの在宅での学習の進め方が折に触れ話題になりました。ほとんど全ての学校は、「課題」を文字どおり課していたと思います。ICT化が進んでいる地域・学校では、いち早くオンライン授業を手がけたところもありましたが、それはまだまだ少数派でした。諸外国と比較されて、「遅れている」との指摘も受けました。確かに指摘は当たっていますが、手を出せない環境であったことも事実です。学校現場だけの努力では進めることのできない領域でもあります。予

算の裏付けがなされ、GIGAスクール構想が一気に加速してくれることを期待しています。

●with CORONA時代の学校

収束傾向にあるとはいえ、感染リスクがゼロになったわけではありません。ワクチンや特效薬が開発されるまでの間は、感染リスクを背負った教育活動になります。手洗い・手指消毒の励行をはじめ、すっかり全国共通語となった「三密」を回避するための考え得る全ての方策を講じながらの学校生活となります。各学校での工夫が試されます。全教職員の知見を結集させての対策を期待しています。

私は、毎年「スペシャルランチタイム」の時間を設け、卒業する三年生と一緒に会食しています。卒業期の楽しみの一つです。昨年度は全生徒との会食を終えた後、新型コロナウイルス感染症が流行しだしましたので、間髪を容れずでした。

会食中、ある男子生徒が「僕の将来の夢は、社会科の先生になることです。」と話してくれました。理由を問うと「中学一年生のときの社会科の先生の授業が、とても楽しくわかりやすかったから。」と答えてくれました。こういう生徒を一人でも多く、こう言われる先生を一人でも多く育てていくことが三教研の使命だということを教えてくれました。



三河教育研究会における

子どもありきの問題解決学習

横浜国立大学（前愛知教育大学） 倉本 哲男

三河の小中学校の教員を会員として、「会員相互の研修を深め、三河の小中学校教育の充実発展をはかること」を目的として発足し、今年度、創立六十周年を迎えた三河教育研究会。三河の教育に造詣の深い、倉本哲男先生にお話を伺いました。

一．はじめに

今年度の四月から横浜へ異動となりましたが、だからこそ、改めて思うことがあります。それは、「三河教育研究会（以下、三教研）」に代表される「三河の教育論とは、子どもありきの教育論（問題解決学習）である」と総括できることです。

このことは、子どもは、自己の切実な問題解決を核とする学習によってこそ育つ、という教育思想に立脚しているのですが、三河の教育の特色（凄さ）は、こ

の教育観が、他県の人口にも匹敵する三河全域に教育的インパクトを与え、その規模（小中約五〇〇校）から考察すれば、全国的に比較しても、間違いなく唯一無二の価値を持ちます。（全国を見渡せば、座席表を活用する学校はあるでしょうが、三河・地域全体で継承しているスケールの大きさ・インパクトは、やはり別格です。）

二．三教研と「子どもありきの問題解決学習」

大正時代から脈々と流れる「生活深化の真教育」の理論と（無意識にせよ）合致しつつ、三教研は、各教科・領域において、「子どもありきの問題解決学習論」を掲げ、具体的な実践手法を確立してきたと言えます。

その手法とは、「座席表・カルテ・抽出席・全体のけしき・教師の出・授業発言記録」などを挙げることであります。また、理論的には「切実性」「問いの連続（仮の課題・真の課題）」「狭義・広

義の）生きて働く実践力」等が典型的です。

但し、ここで、三教研の強みは、全教科・全領域で、それぞれの特徴（目標・内容・方法・評価論）を活かしつつ、「子どもありきの問題解決学習」を独自に確立していることだと考えています。

ある年度、三教研の研究紀要をすべて集め、分析したことがあります。私個人は、カリキュラム開発分野（社会科・総合等）が専門なので、比較的、問題解決学習の理論に合致しやすいのですが、数学・理科等の系統性が強い教科でも、座席表を活用し、「三枚重ね」（①粗々な指導案を作成する。②座席表を作成し、子どもの実態を分析する。③子どもありきの姿勢から指導案を修正する等）を採用している指導姿勢に感銘を覚えました。これはあくまでも一事例ですが、他教科・領域でも独自の方法論を確立している点、が特筆に値します。つまり、三河の全ての先生方が三教研に所属して、それ

ぞれの教師キャリア段階で研鑽を積む事に大きな意味があると言えるでしょう。よって、このシステムが、全国的にもスケールが大きな「子どもありきの問題解決学習」を創造する源であると考察できます。

三．終わりに

ただ、私が、個人的に危惧していることは、少々、座席表・指導案の形骸化が進みつつあるのではないかとこの点です。

やはり、全国的にも貴重な三河の「子どもありきの問題解決学習」の教育的価値が、今こそ問われていると考えています。

参考文献

- 「問題解決学習による学校改善の研究」 太田幸宏（2020）
- 「三河の問題解決学習における若手育成の研究」 小林克久（2016）

倉本 哲男（くらもとてつお）

横浜国立大学教職大学院教授。熊本県生まれ。熊本大学教育学部卒、熊本大学教育学部大学院修士課程修了、九州大学大学院博士課程単位取得後退学。博士（教育学）。熊本県・教諭、佐賀大学文化教育学部准教授等を経て、昨年度まで愛知教育大学教職大学院教授を務めた。



地域とともに取り組む 防災活動

みよし市立三好丘小学校

本校は、みよし市北部の新興住宅街にあり、令和元年に創立三十年目を迎えた学校です。地域や家庭は教育への関心が高く、よりよいコミュニティをつくっていかうという活気にあふれています。

令和元年度は、地域や家庭と連携しながら様々な活動を進めました。本校を会場として実施された「みよし市防災訓練」にあわせ、学校と家庭



コミュニティ主体の防災訓練

が積極的に関わって「三好丘地区コミュニティ合同防災訓練」を実施しました。まず、学校が作成した「避難所開設マニュアル」をもとに、行政区長、本校PTA役員が、それぞれの立場でどのようなことができるかを話し合いました。そして、大きな災害の発生時や本校が避難所になった際の対応を、それぞれの役割ごとに「三好丘小学校災害対応マニュアルパネル」を作成し、展示しました。訓練当日は、校舎や体育館を開放し、作成した展示パネルをもとに、災害発生時の行動や対応等をPTA役員が一般の訓練参加者に説明しました。行政区は、体育館に仮設の避難所を作り、仮設トイレや段ボールで作った生活スペース等を紹介しました。本校の多くの児童も、保護者と訓練に参加し、日頃の備えの必要性や被災した際の集合場所を家族で話し合っで決めておくこと、行政任せではなく自分たちで行動することの大切さ等を感じたようです。

児童は地域の宝です。児童を取り巻く社会環境の変化が大きい中で、地域・家庭・学校の連携がますます重要になってきています。児童の健やかな成長という同じ目標に向かって、三者がそれぞれの役割を果たしていくことが大切であると感じています。本校には、学校とともに児童を見守ってくださる温かい地域・家庭があります。この地域・家庭こそが、わが校の自慢です。

(文責・日置 睦親)

支部 トピックス



泉の心 薫る学校

3Cで想いをつなぐ

Challenge Collaborate Create
挑戦・協働・創造

田原市立泉中学校

「互いがそろわないとできない守備練習や紅白戦をやり、すごく充実した練習でした。」本校の野球部員は、五名。隣接の中学校と合同練習を繰り返し、一つのチームで大会に臨みました。「合同だけれど、みんなが『勝ちたい!』という思いが強かっただけに、とても悔しかったです。」二つの声は、赤羽根中学校の生徒と協働して挑戦することを通して、新たに創り出されてきたチームワークを象徴していると感じます。

本年度、本校は七十四年間の歴史に幕を閉じます。六年前に始まった田原市の中学校再編は、本校の閉校をもって区切りとなります。

統合が決定して以来、長距離走大会や

合唱祭など、学校間で交流を進めてきました。合唱祭に向けた交歓会では、レクリエーションを行ったり、互いにアドバイスし合ったりして親睦を深めました。交流を通して、単独開催では味わえない競争意識の芽生えを感じる事ができました。さらに、今まで以上に真剣に練習したり、応援したりする姿が見られ、泉中学校全体としての新たな連帯感が育まれたことも実感しました。今年、学習でも交流を進めたいと考えています。

「泉の心 薫る学校」3Cで想いをつなぐは、泉中学校として最後となる今年のキャッチフレーズです。「泉の心」とは、部活動など様々な輝かしい「泉の伝統」や、誠実さ、優しさなど地域で育んできた「泉っ子らしさ」です。ラストとなる今年、この心を胸に刻み、仲間とともに新しい伝統を創り上げることに挑戦する年にしたいと考えています。そして、この「泉の心」が統合後も受け継がれるよう、たくましい生徒を育てていきたいと思えます。

(文責・小林 巧治)



円陣を組む両校の生徒たち

教室の窓から

休業中の子どものつながり

豊川市立桜町小学校
古田 由美

昨年度末からの臨時休業が続き、教室の中に子どもの姿はなく、とてもさみしい毎日が続いています。新年度が開始して、たった二日しか子どもたちと教室で過ごすことができていません。

四月当初、受け持つ学年が決まってからは、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大している中だったので、この先のことを不安に感じながらも、「どんな学級にしていこうか。」と、子どもの顔を思い浮かべながら楽しみに思っていました。しかし、再度臨時休業が決まってしまい、そのために予定していた校外学習や運動会などの行事が未定、中止になってしまいました。先を見通せないことへの不安がどっと増していききました。きつと、子どもたちも不安に思っていたことと思います。

不安が少しでも払拭できるように、教師からのコメントを入れたプリントを作り、子どもが学校とのつながりを感じられるような家庭学習を考えました。また、

新学年への期待が膨らんでいるところなので、新出漢字や、既習内容をもとに自分で考えていける筆算の練習など、新しい内容に挑戦できるようにしました。家庭訪問の時に家庭学習で取り組んだものを回収した時のことです。普段の学習では受け身だった子が、

「先生、おれ、宿題じゃないところまでやっておいたから。」

と、得意気に見せてくれました。学校との糸が切れてしまいそうな子だったので、自分でさらに進んで学習できていたことがとてもうれしく思いました。

五月二十五日から学校が再開されることになり、ようやく教室に子どもたちの姿が戻ってくるようになりました。この長かった休業で失ったものもありましたが、つながりを新たに作ることもできた子どもいました。

このまま、感染流行が収束され、日常が早く取り戻せることを切に願っています。



密な状態を避けた遊びの様子

校紹介

「学びに向かう力」を發揮する生徒の育成
— 小集団の学習を核とした授業への転換 —

岡崎市立額田中学校

昭和四十七年四月、四つの中学校を統合して額田町立額田中学校が誕生しました。そして、平成十八年に岡崎市と額田

地区との合併に伴い、岡崎市立額田中学校に改称されました。生徒の中には、学校から二十キロ以上離れた場所に自宅がある者もいます。現在、全校一九六名、寮生五十三名で、愛知県内で一校しかない寮を併設した学校です。平成三十年までの一斉授業ではなく、小集団を核とした授業づくりをしています。

一・学びに向かう力を引き出すCRS

CRSとは、本校の小集団での学習の総称です。この文字は、生徒一人一人が課題に挑戦 (Challenge) し、互いに尊敬 (Respect) し、最後は笑顔 (Smile) になれるようにという願いが込められています。また教師は、生徒の状況を把握 (Catch) し、適切に反応 (Response) し、期待する生徒の変容を目指し一貫性をもってつないでいく (String) 授業で、の手だてを指針としています。CRSは、活動を生徒に委ね、生徒自身の力で協働して解決するものです。一斉授業で行うよりも学習効果が高まるものを目指しています。教師の出 (支援) が手だての中

心であり、生徒の変容を丁寧に検証していきます。

二・学んだこと・学び方を振り返るセルフチェック

生徒自身が自分の思考や活動の過程を振り返り、客観的に捉えます。それが、「メタ認知」となり、生徒は「学びを調整する側面」を意識するようになります。セルフチェックとして、その授業の学びを自己評価することで、よりよい学び方を習得し、主体的に学習に取り組む態度を伸ばすことができますと考えています。

(文責：永井 利昌)



小集団で考えを出し合う CRS

生きる力を育成する三河教育

～学び合い、学び続ける教員として～

総務委員会

三河教育研究会（以下、三教研）は、今年度、創立六十年目を迎えます。子どもの学びを中心に据えた教育活動を根幹におき、時代の思潮に応じた教育活動を追究してきました。これまで、それぞれの時代の要請に合わせた提言がなされ、多くの成果をあげてきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、約二か月の臨時休業を経ての異例のスタートとなりました。従来どおりの活動はできないかもしれませんが。ただ、三河教育に携わる一人一人の教師が、目の前の子どものために、全力で向き合っていけるような取り組みを計画していきたいと思えます。

現在、主たる各部会・委員会の研修会・研究会において、会のもち方や検討の方法について工夫を重ねながら、魅力的かつ実効性のある研修活動を計画しています。例年の方法にとらわれず、より効果的に、一人一人の教師が自己研鑽できる状況をつくっていきます。他にも、教育研究におけるミドルリーダーの養成を目的とした授業力養成講座については、引き続き開催する予定です。

小学校においては、今年度より新学習指導要領が完全実施、中学校においては来年度より完全実施され、「主体的・対

話的で深い学び」による、予測困難な未来をたくましく生き抜く子の育成が求められています。学校における働き方改革が叫ばれるなかにあっても、授業力を高め続けていくことは、教師の大きな使命であり、三教研にとっても切実な願いであります。本会の事業がさまざまな学びの機会となり、各地域や各学校に広がっていくことを望んでいます。

三教研では、今年度、ホームページの充実により一層、力を注いでいきます。三教研の取り組みに関わる情報だけでなく、各学校で実践された学習指導案や実践を今まで以上に多く掲載し、会員の学びの一助となるようにします。また、広報「教育 みかわ」にも三河教育に関わる多数の情報を掲載していきます。会員の皆様からの多くの情報提供をお待ちしています。

※今年度、五月十三日（水）に予定していた「定期総会」ですが、冊子の配付をもって開催とさせていただきます。浅井英雄新会長を中心とした新体制の紹介とともに、令和元年度の事業報告・決算報告、令和二年度の事業計画・予算案について掲載しています。今年度の活動にご理解、ご協力よろしくお願いたします。

今年度の研究大会・研修会等の開催方法について、以下にまとめました（六月二十二日現在）。今後変更する可能性もありますが、ご了承ください。

☆研究大会・研修会

【開催予定】

愛知県学校図書館研究大会 8/26 日進
 ※分科会は中止。講演会のみWEBで開催
 保健体育部会秋季研修会 10/27 田原
 愛知県（豊）複式小規模学校教育研究会 10/27 設楽
 愛知県造形教育研究大会 11/20 津島

【冊子による発表・開催】

※日付、場所は年度当初の予定を記載
 東海 北陸ブロック統計指導者講習会 7/28 名古屋
 愛知県養護教育研究大会 7/31 名古屋
 ICT活用研究大会 7/31 幸田
 愛知県教育研究会中学校部研究大会 8/4 碧南
 英語（外国語活動）部会夏季研修会 8/5 新城
 社会部会夏季研修会 8/6 蒲郡
 技術・家庭部会夏季研修会 8/7 幸田
 愛知県道徳教育研究大会 10/22 豊川
 愛知県小中学校音楽教育研究大会 10/23 刈谷
 愛知県家庭科教育研究会豊橋大会 11/6 豊橋
 愛知県生徒徒指導研究大会 11/27 小牧

【来年度に延期】

※日付、場所は年度当初の予定を記載
 来年度の開催場所については検討中
 国語部会書写実技講習会 7/31 岡崎
 総合的な学習部会夏季研修会 8/4 安城
 生活科部会夏季研修会 8/5 豊橋

造形部会夏季研修会 8/5 豊田
 ※来年度は開催なし。再来年度に延期
 国語部会夏季研修会 8/7 岡崎
 理科部会夏季研修会 8/7 蒲郡
 特別活動部会夏季研修会 8/7 碧南
 特別支援教育部会夏季研修会 8/7 みよし

☆授業力養成講座

※養成講座Ⅰについては中止
 日付、場所は年度当初の予定を記載
 授業力養成講座Ⅰ（東三河） 8/19 豊橋
 授業力養成講座Ⅰ（西三河） 8/21 西尾

【実施予定】

授業力養成講座Ⅱ（東三河） 10/16 豊橋
 授業力養成講座Ⅱ（西三河） 10/30 碧南
 授業力養成講座Ⅱ（東三河） 11/6 豊橋
 授業力養成講座Ⅱ（西三河） 11/13 西尾
 授業力養成講座Ⅱ（西三河） 11/24 西尾

三教研ホームページ
 活用してみませんか?
 現在の指導案収録件数 300件
 最新の参考に!
 研修の参考に!
 全ての子ども笑顔のために
 三河教育研究会
 三河教育研究会について | 教育みかわ | パックシステム | 活動予定・日程 | 活動記録・資料

アドレス: <http://www.sankyouken.jp/>

令和二年度

三河教育研究会役員

会長 豊橋 青陵中 浅井 英雄
副会長 刈谷 朝日中 犬塚 清隆

顧問 豊田 朝日丘中 天野 明典
豊川 南部中 松平 貴圭
岡崎 竜海中 伊豫田 守

幹事 岡崎 城北中 中野 善樹
幸田 坂崎小 都築 孝明
田原 童浦小 平井 孝敦

庶務 愛教大 附属岡崎小 川原 三佳
愛教大 附属岡崎中 増岡 潤一郎
愛教大 附属特別支援 野村 勝美

会計 安城 桜井小 鈴木 佳典
西尾 東部中 石川 雅春
愛教大 附属岡崎中 馬場 健介

◆評議員
(部会長)

国語 豊田 童子山小 野田 健靖
社会 安城 梨の里小 小野 田田
算数 豊橋 石卷中 久野 哲司

理科 岡崎 岩津小 小島 寛史
生活科 豊橋 豊津小 稲田 あけみ
音楽 西尾 一色中部小 河合 厚志
造形 西尾 米津小 丹羽 圭介
保健体育 田原 泉中 小久保 浩明
技術・家庭 岡崎 梅園小 近藤 文彦
英語 刈谷 小高原小 犬塚 章夫
(外国語活動)

道徳 西尾 東部中 石川 雅春
特別活動 豊田 前林中 杉坂 匡人
特別支援教育 豊橋 小沢小 白井 紹仁
養護教諭 刈谷 富士松東小 相羽 孝彦
総合的な学習 安城 錦町小 神谷 早百巳

(各種研究委員会)

学習情報 豊田 藤岡中 成瀬 修司
学校図書館 田原 高松小 河合 寛則
統計教育 岡崎 上地小 鈴木 勝久
生徒指導 豊橋 岩田小 鈴木 常浩
へき地教育 豊田 則定小 成瀬 美香

(支部長)

豊橋 南稜中 金子 直己
豊川 千両小 坂田 貴仙
蒲郡 中部中 大野 邦彦
新原 庭野小 白井 秀明
北設 高松小 河合 寛則
岡崎 清嶺小 後藤 康仁
碧南 矢作中 永野 光雄
刈谷 衣浦小 奥村 尚行
豊田 美里中 杉浦 俊孝
安城 明和小 酒井 多香子

◆常任委員

西尾 東幡豆小 木村 一
知立 猿渡小 三浦 啓作
高浜 高取小 池田 互隆
みよし 中部小 水野 克弘
幸田 豊坂小 本多 宣子

総務委員会

委員長 北設 東栄中 岡田 守
副委員長 愛教大 附属岡崎中 増岡 潤一郎
委員 安城 作野小 岡本 健二
委員 西尾 横須賀小 高須 友悟
委員 豊川 西部中 加藤 洋充

広報委員会

委員長 豊川 南部中 松平 貴圭
副委員長 愛教大 附属特別支援 川原 三佳
委員 蒲郡 塩津小 廣瀬 俊伸
委員 岡崎 梅園小 清水 孝治
委員 幸田 深溝小 吉本 順子

調査委員会

委員長 刈谷 朝日中 犬塚 清隆
副委員長 高浜 吉浜小 加藤 嘉一
委員 愛教大 附属岡崎小 加藤 嘉一
委員 豊田 五ヶ丘東小 神戸 勝一
委員 豊橋 新川小 河野 浩子
委員 刈谷 日高小 長谷川 真

委員 愛教大 附属岡崎小 杉浦 健次郎
委員 愛教大 附属岡崎小 野村 勝美
委員 刈谷 日高小 長谷川 真
委員 豊橋 新川小 河野 浩子
委員 豊田 五ヶ丘東小 神戸 勝一
委員 愛教大 附属岡崎小 加藤 嘉一
委員 刈谷 朝日中 犬塚 清隆

教育随想

(87)

『コロナに負けるか!』



豊田市教育委員会
教育長

山本 浩司

変えてはいけないもの」について問い直す契機となった気がします。多くの行事について、形だけではなく、なぜ行うのか、何が大切なのか、その意味を改めて考えました。アフターコロナの世の中は大きく変化することが予想されます。教育の世界も同様でしょう。教育におけるテクノロジ、ICTの導入は間違いなく加速化するでしょう。その中で、「コロナに負けない!」教職員の姿も目に浮かびます。

百年に一度の危機? 前代未聞の全国一斉休校。子どもたちがいない学校は、こんなにも寂しい場所なのか…。休校が長期化する中、教職員は先の見えない不安の中で見えないウイルスと闘い、子どもたちを守るために踏ん張っています。家庭学習を支援する授業動画の作成では、「いつの間にか夢中になり授業への思いがよみがえった」と話してくれた教員がいました。また、往復はがきで手紙を書いた教員は、特別支援学級の子どもが一生懸命書いて送ってくれた返信はがきにも、感激したそうです。離れていても子どもたちとつながり寄り添っていると感じました。

学校や子どもたちを取り巻く状況は、大きく変化しています。グローバル化や情報化、技術革新は、人の生活を質的に変化させました。また、異常気象による猛暑、今回の新型コロナウイルス感染症の蔓延など、経験したことのない生命に関わる深刻な問題も生じています。コロナ禍によって、世の中はもろろん、教育のあり方も、新たな事態に直面していると強く感じます。これまでの蓄積を踏まえつつ、新しい時代にふさわしい学校の在り方や新たな学校文化を形成していく必要があります。

予測できない未来に対応するためには、社会の変化に対して、主体的に向き合い、一人一人の可能性を最大限に発揮して、よりよい社会と幸せな人生を創り

出していくことが重要です。そのためには、膨大な情報から、何が重要かを判断し、自ら問いを立て、解決を目指し、他と共働しながら新たな価値を生み出していくことが求められます。このように考えると、子どもたちに、新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むためには、学校が社会と接点を持ち、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことができる開かれた環境となることが大切だと考えます。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を、学校と社会とが共有して、これからの社会を創り出していく子どもたちを育てていきたいと思います。一人一人が夢や希望・生きがいをもって、たくましく生き抜いてほしいと強く願います。子どもたちを、子どもたちの学びを、子どもたちの未来を守り抜くために、三河の教職員の底力を見せましょう。



編集後記



昨今の今頃は、オリンピック開催を心待ちにし、新学習指導要領実施に向けての準備を進めるなど、令和二年への期待や希望にあふれていたように思います。しかし、新型コロナウイルスという見えない脅威に直面し、「希望に満ちた令和二年」から「不安で先が見えない令和二年」に様変わりしたように感じます。「従来通り」の運営が困難となり、三河教育研究会でも、総会や夏季研修会等の変更・中止を余儀なくされました。こんな予測不能の状況だからこそ、子どもたちの「生きる力」をいかに育むかが、一層重要になるでしょう。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

「団結」

撮影 豊橋市立北部中学校
(前 豊橋市立中部中学校)

石場 治先生

カット

愛知教育大学附属特別支援学校
田中 千晶先生